

月刊

地域保健

5
2014

●座談会

災害時における統括保健師の役割

●フロントランナー

鎌田久美子さん《福岡県糸島保健福祉事務所 副所長/全国保健師長会 会長》

●ピープル

長谷川博一さん《一般社団法人こころぎふ臨床心理センター センター長/臨床心理士》



6

座談会

災害時における 統括保健師の役割

出席者

中野宏子さん (倉敷市保健所)

平位弘子さん (愛知県清須保健所)

藤原啓子さん (横浜市健康福祉局)

宮崎美砂子さん (千葉大学大学院看護学研究科) =司会

(50音順)

1

フロントランナー

鎌田久美子さん

(福岡県糸島保健福祉事務所 副所長 / 全国保健師長会 会長)

38

FOCUS

認知症予防のための 軽度認知障害 (MCI) の発見・
対処の意義

44

REPORT

平成 25 年度市町村保健師管理者能力育成研修開催

46

PICK UP

日本看護協会『保健師活動指針活用ガイド』

62

ニュース

97

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ!

柳瀬裕貴さん (文京区役所 保健衛生部 保健サービスセンター)

102

ピープル

長谷川博一さん

(一般社団法人こころぎふ臨床心理センター センター長 / 臨床心理士)

連載

(48) 保健師のための閑話ケア 《第 41 回》

藤本裕明

(52) 中臣さんの 環境衛生ウォッチング 《第 26 回》

中臣昌広

(57) いまどき子育てアドバイス 《第 200 回》

中川信子

● 福岡県糸島保健福祉事務所 副所長
● 全国保健師長会 会長

鎌田久美子さん

苦しくても「やりがい」を見つければ仕事は楽しい

元気で頼もしい中堅保健師を増やしていきたい！



保健師リーダーの連携と資質向上、保健活動・人材育成に関する調査研究に取り組んでいる全国保健師長会。そのトップに今春、九州ブロックから初めて福岡県糸島保健福祉事務所の鎌田久美子さんが就任した。少子高齢化、地方の過疎化、雇用の不安定化、単身世帯の増加といった社会変容が進む中、今時の保健師にはどのような技能・経験・感覚が求められるのか。自身の歩みを振り返ってもらいながら、地域保健活動の課題と展望を伺った。

目先のことにとらわれず 本質の見極めが大切

鎌田さんは福岡南部と縁が深い。

最南の大牟田市で生まれ育ち、県職員になって最初の配属先が久留米保健所（現Ⅱ久留米市保健所、中核市）。11年勤務し、この間に結婚し2女を授かった。それから筑紫保健所（大野城市／現Ⅱ筑紫保健福祉環境事務所）を



経て八女保健所（八女市／統廃合により廃止）で3年、県精神保健福祉センター（春日市）を経て久留米保健所浮羽支所（旧浮羽町／後年廃止）で2年、さらに久留米保健所に戻って1年。保健師キャリアの過半を南部で培った。働きながら家事・育児をこなせたのは「実家の支援、とりわけ母の助けがあったから。自分の仕事を辞めて子どもたちの面倒をよく見てくれた」。そ



博多ポートタワーから博多港を望む

の母が5年ほど前に認知症を来し、今は壮健な老父に支えられて暮らしている。鎌田さんは「週末介護」をほとんど欠かさず、老老介護を支え続けている。「わたしが娘であることも分からなくなってきましたが、今でも実家に帰ってピアノを弾くと母が喜んでくれるのがうれしい」

初任地の久留米ではいきなり2つの小学校校区を受け持たされた。右も左も

災害時における 統括保健師の 役割

世界中で異常気象や大災害が頻発する中、わが国の切迫性のある大地震として、東海地震、東南海・南海地震、首都直下地震が指摘されている。東日本大震災では、保健活動におけるさまざまな問題点が浮き彫りとなった。特にリーダーの不在は活動の大きな障壁となり、緊急事案の意思決定が滞るなど混乱をきたした例もある。災害時の統括保健師の配置、役割の明確化や、体制づくりは喫緊の課題である。

今回は、災害時の保健活動を確立すべく検討を進めている県庁と市町村の統括保健師にお集まりいただき、統括保健師の果たすべき役割について語っていただいた。



● 倉敷市保健所
中野宏子さん



● 愛知県清須保健所 (前 愛知県健康福祉部)
平位弘子さん



● 横浜市健康福祉局
藤原啓子さん



● 千葉大学大学院看護学研究科
司会
宮崎美砂子さん

宮崎 本日司会を務めます、千葉大学の宮崎です。

本日のテーマは「災害時における統括保健師の役割」です。

災害時の支援対応においては、指揮、命令系統の明確化とともに、保健活動を組織的に推進していくためのリーダーの存在が欠かせません。

平常時においては、自治体の保健師の多くが分散配置下に置かれている現状があります。そういった中、平成25年度に厚生労働省から「地域における保健師の保健活動について」が発出されました。ここでは、統括的立場にある保健師の配置の必要性について言及されています。

しかし、災害時における統括保健師の役割と機能、そしてそれが効果的に発揮されるための体制については、まだ十分に議論されておりません。

本日は、災害時の保健活動の検討を精力的に進めている県庁と市町村の統

括的立場にある保健師の皆さまにお集まりいただきました。現在の取り組みについてお話しいただきながら、災害時の統括保健師の役割、機能、そして、体制について浮き彫りにしていきたいと思えます。

まずは自己紹介から始めていただきますと思います。それでは、平位さんからどうぞ。

平位 愛知県の平位と申します。よろしく願います。

2011（平成23）年の東日本大震災の発災時は、保健所の課長補佐として、第1班のリーダーとなる保健師を送り出す側にいました。しかし、事態の長期化が予想され、業務の調整の必要性を感じていた矢先の3月中旬に、県庁への異動の内示を受けました。県庁では緊張感が漂い、これまで経験したことのない雰囲気の中で引き継ぎを受けました。不安というよりも、これ

から震災に関わる職務を遂行していくのだな、という覚悟というか、決意ができていたように思います。ただ、そのときは、まだ「統括保健師」という意識はありませんでした。被災地への派遣調整をする中で、国や他県から情報を収集・提供したり、県の幹部との接触、さまざまな団体に支援要請などを行いました。今考えると、そういうことが統括保健師の責務であり、任務だったと思います。

中野 倉敷市の中野です。

2002（平成14）年に倉敷市は中核市になりました。私は2008（平成20）年から課長職となり、東日本大震災のときは、現在の倉敷市保健所の副参事兼保健課長という立場でした。保健課は、健康危機管理全般を機能させることを目的として動いています。災害時には、派遣調整等も担います。東日本大震災では、総務係の保健師2

人とともに、3人で準備態勢を整えました。中核市になって3回目の派遣でした。1回目の2004（平成16）年に発生した新潟県中越地震のときは、事務職が派遣調整をして、保健師1人（私）での派遣だったため、かなりつらい経験をしました。2007（平成19）年の新潟県中越沖地震からは、私が派遣調整をする立場になりましたので、その中で統括的な役割を担わせていただきました。

現在は、健康危機管理、精神障害や難病支援などを通じて、災害時の対応はいかにあるべきかを、職員と一緒に検討しているところです。

藤原 横浜市の藤原です。現在は、健康福祉局人材育成担当課長をしています。

横浜市は、2006（平成18）年に、福祉局と当時在籍していた衛生局が統合されて、健康福祉局になりました。

衛生局のころから保健事業全般を統括する課長役でした。事務分掌には統括と書いておりませんが、保健師に関することはすべて健康福祉局で受け持つことになっていましたので、東日本大震災でも、健康福祉局で連絡調整や派遣調整を行いました。

東日本の際は前職だったので、2週目に陸前高田市に派遣されました。震災の年の5月に区から現在のポストに異動となり、今度は派遣調整をする立場になりました。

横浜市にいながら調整するには限界があったため、被災地にも赴き、現地の統括役の保健師と相談しながら、実人数100人近い保健師を陸前高田市、いわき市、福島市に派遣しました。最初に自分が陸前高田市に派遣されたときに、自治体機能が壊れていることが分かりましたので、ただ保健師を送り出せばいいという問題ではなく、機能を補完しながら遂行していく必要性



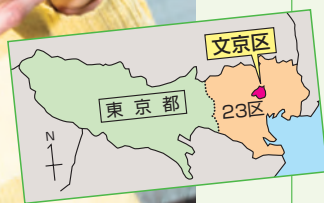


保健師という仕事が秘める可能性を 広げていくために

人とつながり、人をつなげていきたい

や な せ ひ ろ き
柳瀬裕貴さん

●文京区役所 保健衛生部
保健サービスセンター



文＝太田美由紀（ライター） 写真＝ C.Kent

スラリと長身の好青年。話す言葉は明快で、明るく優しい人柄がにじみ出る。東京都文京区役所が入る近代的なタワーの前で、抜けるような青空にも、黄色の洋服にも負けないさわやかな笑顔で迎えてくれたのは、文京区役所保健衛生部保健サービスセンターの柳瀬裕貴さんだ。2013（平成25）年4月から保健師としてスタートを切ったばかりだが、現在は担当地区を持ち、虐待予防事業、育児支援グループ、特定保健指導、生活習慣病予防教室、ウォーキング教室などにも関わりながら、ローテーションで母子、精神、成人すべての事業に就いている。

予防医学の可能性を 保健学に見つけた

生まれも育ちも福岡県。朝倉郡筑前町で、山や川、一面の田畑に囲まれてのびのびと育った。中学では生徒会長、軟式テニス部に所属し、高校でも続け

たテニスでは県大会で優勝するほどの腕前だった。といっても、みんなを引っ張るガキ大将タイプではなく、全体を見てみんなが仲良く、楽しく過ごせるように声をかけ、心を配っていた。心優しき九州男児だ。

「後輩と関わることも好きでしたし、慕われるとうれしかったんですね。今思えば、そういうところは父親ゆづりかな。地元で建築士として事務所を構えている父は、消防団長をしたり、お祭りに参加したり、地域の行事や人のつながりを楽しんでいました。そんな父のことを尊敬していて、影響を受けていたのかもしれない」

医学部を目指していたものの、家業を継ぐのもよいかと宮崎大学工学部に進むが、医療の道をあきらめきれず、福岡県立大学の看護学部に入り直した。保健師に興味を持ったのは3年生のころだ。「誰でも病院で診察してもらえる、日本の医療保険や医療システ

ムの素晴らしさをどうすれば維持できるのかと考えたとき、やはり予防医学が大事だと思った」という。

そんなとき、教授の紹介で、東京大学博士課程の研究で福岡を訪れていた^{なるせがし}成瀬昂さん（現Ⅱ東京大学医学部地域看護学助教）の作業員としてアルバイトをすることになった。「成瀬さんと大いに意気投合」し、教授や成瀬氏の勧めもあり、東京大学大学院に進学。保健師コース12人目の学生（男性としては2人目）としてさらに学びを深めることになった。

「看護学部でも、医学部を目指して勉



声にならない「かすれた声」をキャッチするまなざしを
そのままでもいいんだよ。人間はみんな価値がある。

長谷川博一さん

一般社団法人ころぎふ臨床心理センター センター長／臨床心理士

聞き手 太田美由紀（ライター）



虐待に悩む親のための「親子連鎖を断つ会」、不登校や発達障害の子どものための居場所づくり、事件の心理鑑定なども手がけ、近年「やさしい虐待」への警鐘を鳴らしている臨床心理士の長谷川博一さん。岐阜駅近くにころぎふ臨床心理センターを立ち上げて1年半を迎えようとしている。子どもたちの不登校、引きこもり、親子間の葛藤をはじめ、子育てにまつわる相談は後を絶たない。思春期の子育てに悩む親たちへの温かいまなざしについてお話をうかがった。

かすれた声、歪んだ声から SOSを感じとる

—現在、思春期の子どもたちやその親のカウンセリングを中心にさまざまな活動をなさっています。学生のころから臨床心理士を目指していらっしやったのですか。

長谷川 当初は大学で経済学部に進学したんですが、毎日が面白くなって、無気力な状態でした。そんなとき、書店で1冊の本を立ち読みして激震が走ったんです。それが、河合隼雄先生

のユング心理学の本でした。これは面白いということ、大学の学生相談室に駆け込んだら、相談員が偶然にも心理臨床学者の山中康裕先生、河合隼雄先生の弟子だった。すぐに心理学部に転部の手続きをして試験を受け、編入しました。

—「激震が走った」とは、具体的にどんなことですか。

長谷川 まず、人間は自分の意識に及ばない深層心理に突き動かされているという精神的な発想に引かれまし

PROFILE

●はせがわ・ひろかず●

1959年愛知県生まれ。臨床心理士。2012年12月に東海学院大学・大学院教授を退職後、一般社団法人ころぎふ臨床心理センターを設立。専門は心理療法、犯罪心理（心理学的鑑定）、パーソナリティ障害、自殺/自傷、児童虐待、DV、いじめ、発達障がい、スクールカウンセリング、しつけ、人権など。著名人のカウンセリングも手掛ける。虐待に悩む親のための「親子連鎖を断つ会」主宰。『お母さんはしつけをしないで』（草思社文庫）、『子どもを虐待する私を誰か止めて!』（光文社知恵の森文庫）ほか著書多数。

た。ユング心理学ではそれを肯定的に捉えているんです。人間の心の奥に司る「知恵なるもの」は誰の中にもあると書いてありました。それを刺激することはできるのだろうか、そういう勉強をしたいと思ったんです。

実は、私が心理学を選んだ伏線は、